

刊夕日九廿月六

常警每日新聞

定価 一月五拾五銭 郵費別
 廣告料 五拾五銭 行金五拾五銭
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常警毎日新聞社
 印刷所 常警毎日印刷株式会社

救はれる道

眞 繼 雲 山

本朝淨土門の開祖法然上人は、四十三歳まで叡山にあつて、聖道自力の學を究め行を勵まれたが、遂に安心悟道に入る能はず。轉じて天台の學僧たりし先人慧心僧都の著『往生要集』を讀んでゆかれるうちに『往生之業、念佛爲本』の文にいたりて豁然として領解あり、成るほど往生の道は念佛の外にはないのだといふ結論だけにはつかまれた。しかし念佛すれば何ゆゑ往生できるのかといふ理由が未だ明らかでなかつた。機關車の構造を知らずとも汽車に乗れば目的地にいたり得るが、上人は進んで汽車の走る構造理由を究明しやうと力められたのである。そこで進んで善道大師の『散善義』を讀みゆかれるうちに

一心に専ら彌陀の名號を念じ、行住座臥に時節の久近を問はず、念々に捨てざるものは是れを正定の業と名づく、彼の佛の願ひに順するが故の一句に至り成る程と案を打つて、徹底的の領解を得られた。法然上人は、この上は最

是や餘の學問修行はその要なしとして叡山を下り吉水の道を開かれたのである。叡山の一室に黙々として書をあさり、筆に親しみ、種を蒔いてゐた慧心僧都のたましいの一粒が、法然上人にはつて花を開き親鸞上人にいたりて實を結んだのである。慧心僧都が『名號を稱へることは極樂往生の正しき原因である』と言ひ遺しておいたことを、後の親鸞聖人は『名號とは本願召喚の勅命である』と諒解してゐられる。善道大師の散善義中にある『一心專念彌陀名號云々』以下の三十四文字は、その何の意を問題したものであるかといへば内容は至つて簡單、何等六つかしいことではない、すなはち碎いていへば、念佛する衆生を助けたいといふことは、阿彌陀如来が命にかけてのお誓ひであり、御願ひであるゆゑに、それ程の阿彌陀様のお頼みとあらば然らば助かつてあげませうと御興を擧ぐれば、それで

助かるといふことに外ならぬ。親鸞聖人は歎異鈔の劈頭において上の文を領承してのたまはく

涼味百パーセント菊地の白靴
 お若いお方にノーズル型
 最新角型はモダン好み
 お中年のお方は先細型
 とてもシイクで値が安い
 当店自慢のリネンシュー
 三、二〇ヨリ……五、〇〇マデ
 平四 菊地靴靴店
 電話(呼)四三六

度量衡、計量器、吸入
 用酸素、酸素吸入器
 關内藥局
 電話四〇番

預金には税金がかゝりません
 御子様のため貯金
 平町田町(新道通り清水醫院跡)
福島貯蓄銀行
 平支店
 電話三〇八番

貯金は福島貯蓄へ

預金と拂出し御融通も懇切御便利を旨とし
 月掛貯金には集金人が伺ひます

金銀 高價買入ます
 プラチナ
 平町田町丸新デパート
 假營業所
根本時計店

吉田眼科病院
 平紺屋町、電話六八番

川本 本場新茶入荷
 一斤に付、四〇より 一、〇〇まで
 新家庭用ほうじ茶
 斤 六〇 四半斤 一五銭
 斤 四〇 〃 一〇銭

御家庭用
 京清水燗
 御前茶器
 番茶器
 組三〇銭
 在荷豊富

香味本位の本場銘茶を
 召上りませ

電三九六番
大勝園

齒科 東京醫學士 中村文一
 平町鍛冶町 吉田吳服店西隣

玉屋洋品店
 平町田町通電話六五六番

正札堂の夏服

黒セルセビロ上下 六圓ヨリ
 パンピースセビロ上下 八圓五十銭ヨリ
 ポーラーセビロ上下 九圓ヨリ
 ポーラー最上品三ツ組 拾八圓五十銭
 白ズボン 七拾五銭ヨリ

正札堂洋服店
 電四三六

四倉爾市場閉場

安値に災ひされて

昨年と比較し三萬圓の減收

去る十三日より開設された四倉爾市場は昨廿八日を以つて閉場されたが開期十五日間に取扱つた春爾取引の成績は昨年とは比較にならぬ減收を示して居る即ち總貫数は二萬八千六百五十五十匁此の代金四萬九千九百四十四圓三十三錢で昨年の取引總數二萬八千二百二十三貫二百九十匁、金額八萬二千四百八十九圓九十九錢に比較すると貫數では七千九百三十六貫七百四十匁、代金では三萬二千九百一圓六十六錢と云ふ大減收を示した昨年との比較左記の如くである。

最高	最低	買馴
白爾	昨年 三三	二八
本年 二五	一九	二五
黄爾	昨年 三三	二八
本年 二五	一九	二五

平第一の努力

事項決定

平第一小學校にては昨午後一時より職員會を開き左の事項を努力する事に協議した
(教授)教授力の徹底、學校教育を地方に適宜なら

九品寺の

托兒所に

伏見町長が感謝狀贈呈
既報廿六日閉所した平町九品寺住職遠藤心光氏の托兒所經營に對し伏見町長は此の程感謝狀を贈つた

大工事を控へて

先づ調査委員が協議

鮫川江筋の改修

鮫川堰普通水利組合では今回農林省より四十萬圓、縣より六萬圓の土木補助費を交付され七百町歩を濬す廢渠箇所の一々改修工事が行はれる事となつたので同組合では來月四日午後三時より團體事務所にて調査委員會を招集する事となつた

先生と生徒

勝負つかず

平商業學校職員對生徒の軟式野球は昨日午後二時より同校グラウンドに於て延長戦迄行つたが勝負つかず結局十二對十二でドロンゲームになつた

來月一日から

工場安全週間

工場安全週間に際しては準備、整頓、服裝、衛生、防火の各デーを設け各工場にポスターや趣意書及び安全マーク等を配布するが尙優良會員を表彰すべく目下調査中である

掃立制限

草野で協議

石城郡草野村養蠶實行組合では今回の春爾取引の値安に鑑み夏秋爾の掃立は自發的に制限すべく近く役員會を同村小學校に開會すると

水泳部に新記録

磐中の將來大いに有望

猛練習の結果

磐城中學校水泳部にては目下猛練習中であるが昨日左の如き新記録を出し將來有望視されてゐる

▽五十米 (自由型)	卅三秒	五年遠藤清美
▽千五百米	卅一分	五年木田茂

農村の一點景

低くたれこめた梅雨空の下、赤銅色のたぐましい半裸身をビチ〜とあせだくで鍬を振つてゐる農夫が居る、近づいて見るとそれは桑園の開墾だ「畑にするんですか」「ウシニヤ田にするだよ、コウ爾が安くてはどうにも引き合んでなう」「田にしてみたとこで米だつて安いぢやないですか」「そりや安いさ、安いが爾は食ふわけにやいかん、米なら食へるからなう」このトツさん、なか〜氣丈ものらしく反にあまゝ桑園を一人でせつせと掘返してゐる

伊藤翁逝く

飯野村伊藤淺之助氏嚴父芳吉翁は病氣中の處廿八日午後十一時半高齡を以つて逝去した葬儀は七月二日午後三時自宅出棺寶國寺に於て執行の筈

ヒロイモノ

▼平町大工町一四永島庄次郎君は六月二日平驛前で一圓八錢在中の墓口を▼材木町七鈴木一夫君は六日松ヶ岡公園入口で一圓五十錢及び印鑑在中の財布を▼古鍛冶町八廣田忠吾君は十九日古鍛冶町地内で一圓三十六錢在中墓口を▼田町五新妻マツヨさんは二十五日田町地内に一圓紙幣一枚を▼才樋小路大河内静子さんは二十八日才樋小路地内で五圓紙幣一枚を拾得それ〜此程平署に届出した

平町人事

△月見町二三當時神奈川縣横濱市中區西戸部町稻荷臺一五〇二根本鐵之助氏三女和子
△材木町十二面者六男典勝
△月見町二三當時横濱市中區西戸部町稻荷臺根本和子(ツ)

父伊藤芳吉儀病氣の處六月二十八日午後十一時三十分死去仕候間御通申上候

追而葬送の儀は來る七月二日午後三時自宅出棺寶國寺に於て佛式相替み候
昭和七年六月廿九日
石城郡飯野村

男 伊藤淺之助
親戚 芳賀元治
總代 山崎吉平
友人 山崎吉平
總代 山崎吉平

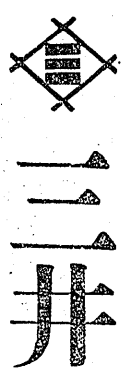
磐城セメント會社特約店



□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は人の生命なり

平町新川端(釜屋新宅向)

内科 醫學博士 難波 睦
電話五〇二番



タクシー
電話六八五番

可憐な

成績品の數々

平第二校の

展覽會審査

既報平第二小學校にては去る二十七日より本日迄全校児童の圖書及び書方並に低学年の硬筆展覽會を開催したが審査の結果左の如く一二等の入賞者を決定明日各々賞状を授與すると

△ 圖書
(一等)一ノ四木村イミ
一ノ三菅野敬子 二ノ一五十嵐静子 二ノ四白土アイ子 三ノ一五十嵐シノブ 三ノ二松本ミサ子 三ノ三原つね子 四ノ一飯島サト子 四ノ二關内ヨシ子 四ノ三小川フミ子 五ノ一近藤シヅ子 五ノ二赤坂和子 五ノ三市川隆子 六ノ二阿部トシ子 六ノ三吉成貞子 高ノ一三小川キン 高ノ二一林ツノ(二等)一ノ一羽石芳江 一ノ二飯島敏子 一ノ三中野静子 一ノ四大崎福子 二ノ一千葉恰子 二ノ二鈴木美枝子 二ノ三青木美代子 二ノ四白土アイ子 三ノ一關内トシ子 三ノ二葉谷幸子 三ノ三田中マヌヨ 三ノ四鯨岡久子 四ノ一鳥海珠 四ノ三佐藤千代 五ノ一佐藤久子 同鍋島ハツノ 五ノ二石山小夜子 五ノ三君島福

子 六ノ一佐藤シゲ子 六ノ二氏田ハツ 六ノ三廣澤ヨシエ 高ノ一ノ一山崎ヒロ 一ノ二金子里子 一ノ三大塚ツネ子 高ノ二ノ一小泉ユキ子 二ノ二笹山イチ子
△ 書方
(一等)二ノ三千葉恰子 四ノ四淺井吉子 四ノ二飯塚サト子 四ノ三端山多賀子 五ノ三市川隆子 六ノ二氏田ハツ 高ノ一ノ一鳥海和 高ノ二ノ一諸橋クニ(二等)二ノ四佐藤ミチ 二ノ一大和田キヨ子 三ノ一野口千恵子 三ノ四吉田貞子 四ノ一鳥海珠 四ノ二高橋澄子 五ノ一大和田智恵子 五ノ二石山小夜子 六ノ三江原孝子 高ノ一ノ一矢部ツル子 一ノ二草野千代子 高ノ二ノ一丹野キヨ子
△ 硬筆
(一等)一ノ四淺上マサ子 (二等)一ノ二松本トミヨ 一ノ四藤野トミ子

脅かし半分で

借金の居催促

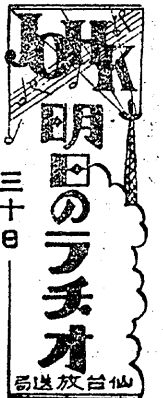
昨日公判開廷の結果

拘留さる

石城郡泉村大字泉字小山六十五番地會社員佐藤權兵衛(三)及び同人方無職高原藤吉(二)の兩名が既記の如く去月二十八日午後七時頃板橋鐵道、渡邊芳太郎と共に謀し同郡湯本町大字三國武田謙方に至り債權者鈴木啓造の

依頼に依る貸金の催促を爲すに當り亂暴を働いた事件は昨日午後二時より平區裁判所に於て關口判事係り上田檢事立會の下に公判開廷事實審理の結果暴力行爲並びに傷害罪として拘

留されたが次回公判期日は來月六日午前九時であると同事件の内容は左の如くである
被告佐藤は短刀及び仕込杖様のものを示し食卓を足蹴にして暴行を加へるが如き氣勢を示して之を脅迫し被告高原は右食卓を武田の妻トメに投付け全治迄三週間を要する傷害を與へ更に今月二十一日午後三時頃泉驛構内に於て阿部庫と口論の末夫々棒を以て殴打し全治迄二週間を要する傷害を加



明日のラジオ

三十八
今晩は北東の風 晴後薄曇り明日は北東の風曇る 見込み

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
お話「釣」松岡文太郎
後六、二〇 コドモの新聞
後六、二五 カレントトピックス、ハロルドパーマー
後七、三〇 「凱旋記念上海實戦の夕」東京市主催東京日比谷公會堂より
へたのであると

突然落盤

支柱夫重傷死

石城郡内郷村磐城炭礦高坂坑内で今晩一時半頃支柱夫阿部次郎(四)が作業中突然落盤に見舞はれ胸部を強打し瀕死の重傷を負ひ直に炭礦病院に收容手當を受けたが午前七時半頃遂に絶命したと

四年野外演習

磐城

中學校四年生は本日八谷、小松兩係官に引率され小川方面に於て野外演習を行つた

夏休準備

磐中課題協議

磐城中學校にては明日午後一時より各学年主任會を開き夏休みの課題を決定すると

消防組の公益事業

金馬簾授與の爲め調査

平警察署では管内各消防組の本年度に於ける各種公益事業に依る金馬簾の授與允許を申請すべく目下調査中であるが既に候補村として夏井、飯野、湯本等を數られてゐる

讀方研究發表

平町各小學校尋常科第四學年主任會は來る七月一日第二小學校に於て開かれるが當日

明日の部

前九、一〇 料理献立「ヒナ鳥羊子焼」朝倉朝吉
前一〇、三〇 家庭講座「農村向き家庭パンの話」岩手縣人香町菊地正助
後〇、〇五 管絃樂「東京ラデオオーケストラ指揮

二度目の亭主

マンマと

石城郡内郷村字宮坑夫朝鮮慶尚北道靈川郡應九面生れ李承玉(三)内縁の妻水戸市生れ富田キミ(三)は去る廿一日午後八時頃李の不在中同人の衣類及び現金四十圓餘を拐帶し先きの亭主である茨城縣水戸市上市町松本長吉事李元朝(三)方に逃げ歸つた爲め承玉は廿六日平署に取押方願出た

蕪市況

四倉市場 最終日
△白蕪 七十七貫 最高二十五圓三十錢 最低二十圓
△買馴二十三圓
△黃蕪 二百二十七貫 最高二十五圓七十錢 最低二十一圓 買馴二十四圓六十錢
植田市場 廿八日
△黃蕪 六百五十八貫 最高二十六圓五十錢 最低二十五圓 買馴二十五圓八十錢 掛目廿一

相馬小僧

懲役二年求刑

既報相馬郡生れ平町字仲町二番地居住綿商前科九犯相馬小僧事遠藤忠藏(四)に係るスリ事件の公判は昨日午後一時より平區裁判所に於て竹内判事係り上田檢事立

回求人の部

△女中 二十五才迄 尋卒
月三圓外チップ(平町某)
△子守 十四才迄 尋卒
仕着小遣(平町某醫院)
△小店員 十八才 高卒

幕末剣士

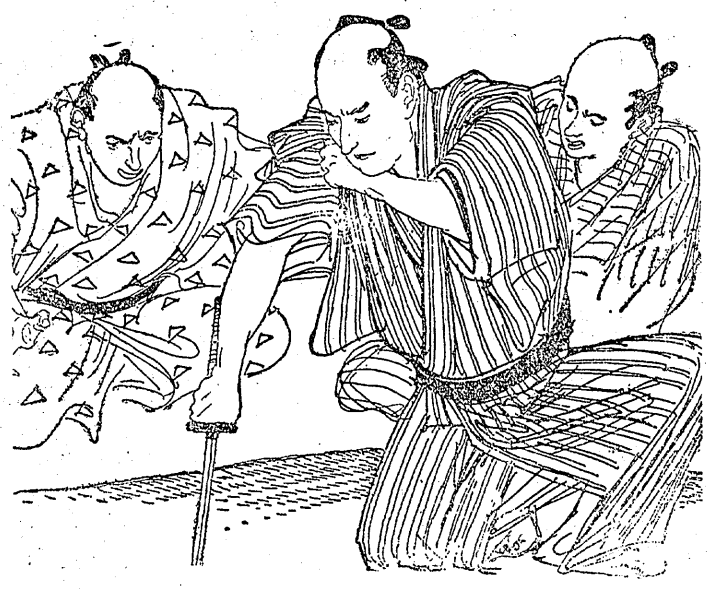
【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉 演
近藤 紫雲 畫

第八十八席 眞庭念流達人櫻井五助

煙を目當にズバリ

相ノ川の又五郎の子分に
雨傘の幸次と云ふ者があり
ました、女房をおかねと云
ひ此處より遠く離れぬ上州
館林の武藏野と云ふ茶屋に
居た、今で云へば酌婦の上
りで、生れは江戸の淺草、
年は廿七です、お召縮緬の
廣袖を引掛けて頭髪は達磨
返しに結び銀簪を挿して長
羅宇の煙管で煙草を喫み乍
ら如輪木の火鉢を前にして
子分に用を吩咐けると云ふ
妻い女、毎晩のやうに此處
に賭場が出来る、遊びに來
る人達は名主の小旦那であ
るとか又山持などといふ工
面の宜い連中、そこへ藤太
郎も遊びに來た場所へ坐つ
て賭り出しましたが丁と賭
れば半と出る、半と賭れば
丁と出るどうしても受け目
がない十四五兩忽ち取られ
てしまつた、此方も渡世人
今夜は目が立たぬと見たか
らもう賭りません、
藤『不思議だナ、一番も受
けずに十四五兩ペロリと取
られるとは希代だ、大分客
人にも怪俄人があるやうだ
不思議だナ』
云ひ乍ら熟と見て居た、
スルとバラ／＼と半賭



をお引きなすつて下さいね
え嘉右衛門旦那
嘉『駄目だよ、俺が茲は半
と口を切つたでねえか、コ
、一番で今まで取られたを
取り返へさうと思ふ大事な
勝負だナ』
子『然うでございますかえ
どうでせう新家の小旦那、
もう十兩あると勝負が出来
ますが』
小『駄目だと云ふに然うは
賭れねえだ』
子『それでも前に受けてお
在なされるから』
小『受けたつて駄目だよ』
子『左様でございますか、

小『それは駄目だ、受けた
と云つたところで前に賭り
流して居るだから然う賭る
譯に叶かねえ』
子『左様でございますか、
デハ半方の金を少し引いて
お貰ひ申したいもので、つ
ば目が合ひませんと勝負が
出来ません、本町の旦那金

した、その途端に敷いてあ
つた薄縁から細い煙がス
ツと立ち昇つた、これを見
ると藤太郎が
藤『ヤイ待て』
と云ひながらズイとそれ
へ進んで脇差を引き抜き煙
の立昇つた處を目當にズバ
リと突いた、スルと縁の下
でウーム……と悲鳴を
上げた、貸元の幸次は驚い
て膝元にあつた長脇差の柄
に手をかけ
幸『何をすると詰寄る』
藤『ジタバタ騒ぐナ、静か
にしろ、どうも先刻からこ
れには縁があると睨んだが
途方も無えことをしやアが
る、オイ／＼騒ぐナ後でゆ
つくり相手をして遣らう、
モン皆さんこの壘を上げて
見て下さい』

云はれてその座に居た客
人が壘を上げると、藤太郎
の爲に肩を突かれて血染に
なつた若い男が其處に居る
○『野郎悪いことをしやア
がつて此方へ出て來う』
ズル／＼と引き上げた、
茲の貸元雨傘の幸次蒼くな
つて居ります、それはどう
いふ譯だと云ふと今で云ふ
詐欺賭博、壘の表のみにし
てその上に薄縁を敷き縁の
下に一人隠れて居て線香を
點してその火の光りで骰子
を見て居る、茲は丁と出さ
うと思へば針でその骰子を
丁目の出るやうに直す、又
半を出す時その通り、と
ころが勝負に物云ひがつい
てツボを開けるのが遅くな
つたそれゆゑ線香の煙が壘
の表からもれました、悪い

事は出来ないもので、これ
を藤太郎が知つて突如脇差
を突き通した、イヤどうも
今まで取られた客人が怒つ
た事
○『とんでも無えことをす
る奴だ、この野郎は八兵衛
でねえか、この畜生汝が爲
に五十兩取られたぞ』
とボカ／＼撲つ

運動靴は……
月星
品質は斯界の王
名入れ金具付きの
サーピス
平田町
大塚運動具部
電話七七番

印刷物の御用命
常磐日印刷株式會社
電話三六〇番

上田外科醫院
平町 南町
電話二一九番

旭硝子株式會社製品
赤菱印 板ガラス
菓子食器
硝子壘
其他各種
松崎硝子製作所
平町新川町(電話一四二番)
仙臺市榮町(電話五九七番)

代理店新設
安心の出來る 健實なる 有
隣生命 保險株式會社の代理店を引
受けました。何卒御利用の程を御願ひ
致します。
有隣生命保險株式會社
平北城主幹代理店 佐々木龍若
附屬社員 志賀寛

正確な時計
好適の眼鏡
平一常盤屋時計店
お客様本位の……